京城日報

一月五日

本紙定價　一部金三錢五厘　一ヶ月金六拾錢（郵稅共）
廣告料　五號活字十六字詰壹行金八拾錢
發行兼編輯人　眞田直麿
印刷人　小川三之介
發行所　京城太平通一丁目　合資會社　京城日報社

京穀物初相場

△正米　穀物商組合による

[illegible]十四圓四十錢に入り[illegible]を見越し一般春商の念を强むる事となりしが此處新春を迎へ春商の理想は一層助長せられたる模樣なり初取引としては鳥山神[illegible]すれば米三四十[illegible]は組合に[illegible]錢を新春買[illegible]り移出[illegible]六圓二十錢にて移出初手合ひ行はる

△大豆　新穀以來昂騰に昇騰を重ね取引殷賑を極めしには白川物[illegible]圓九錢延安物七圓九十五錢迄の見當となりしが新春に入り相場は一段下押となり初相場は年末[illegible]くて之が賣買に當り[illegible]側は兎角注文を受け切らざる風情あり在品薄の本品は今後如何に展開し來らんかは一般の注意を拂ひつゝあり

仁川現物市場

地摺玄米十一圓三十錢四十錢、同神力下格品十二圓十錢、黃海玄米十一圓六十錢同下格品十一圓九十錢、海[illegible]氣配各[illegible]引締りの氣先を受けたるも籾の入津依然少なく隨て賣物も潤澤ならざるより大阪與米の存外不況なるにも拘らず十錢高見當

△四日初相場　前場前寄十六圓三十錢大阪天候晴天當限十五圓九十八錢と昨年納會より二錢安中十六圓二十六錢と[illegible]錢安新十錢と十錢安に寄付直ちに三十五錢と伸び三十錢と返し遂に二十五錢と押し廿八錢迄盛返し七錢引新甫は五十錢[illegible]鞘の十二圓八十錢と

●昨年と今年の鞘　昨年の初會は十一圓七十錢なりしに本年は十二圓八十錢と一圓十錢の上値に呱々の聲を發げ一面正米界の情如何なる徑路を迺るならん

大正五年朝鮮經濟の趨步(三)

七、鑛業

△斯界の殷賑　久しく萎微不振を極めし朝鮮の鑛業界も新政施行以來漸次其面目を改め豐富なる資本を以て大規模の操業に從事せんとするもの多きを加ふると共に從來の小鑛業家並に之に倣ふて規模の擴張設備の整頓に努むるに至れり殊に戰亂に伴ふ鑛物の暴騰は近時著しき活況を與へ大正五年の如きは鑛業令の發布其の他と相俟つて斯界は未曾有の殷賑を呈せり

△鑛業出願　同年一月より十一月に至る鑛業出願數は二千六百九十一件にして之を前年同期の出願七百三十三件に比すれば三倍半戰前一箇年の出願約六百件に比すれば四倍半の增加を見又た期間に於ける鑛業及び砂金鑛の採取許可數は金鑛二百二十一件砂金百六十五件黑鉛五十一件金銀鑛三十件硅砂十六件金銀銅鑛十四件銅鑛十一件其の他九十九件合計六百七十件に達し前年同期の許可數三百八十件に比すれば約二倍の增加を示せり

△輸移出額　朝鮮の鑛產額は輸移出額に比し毎年著しき減差あるが故に茲には比較的正確なりと認めらるゝ輸移出額を以て其の產額と假定せんに大正五年中の推算額は金鑛一、二三四、九二六圓鐵鑛五〇九、五〇八圓黑鉛五二六、三六八圓石炭三九八、〇六四圓其他の鑛物三〇六七、七三四圓金地金一五、四二〇、七一九圓銀地金七一九、一二〇圓計二三、七一六、五二四圓を數へ之を前年同期の輸移出額一四、二七〇、八一六圓に比れば約一千萬圓の增加を告たり倚ほ總督府の調査に依る同年中の主要鑛山を列記せば左の如し

雲山、遂安、稷山、昌城、曲江里、樂山、秀德山、朔河、安岳、殷栗、載寧、价川、甲山、蘇氏、永興、得水、安州、順安

八、商工業

△新設會社　大正五年一月以降十一月迄に於て新に會社の設立を見たるもの十五其の資本金總額七百十九萬五千圓にして會社企業の趨勢は[illegible]健實に向ひ從來の如き泡沫的會社の申請は殆んど其跡を絕つに至れり

△[illegible]　[illegible]以來京畿道外[illegible]に於て[illegible]しつゝある米穀檢査は極めて良好の成績を擧げ內地市場に於ける朝鮮米の聲價を向上せしめしこと鮮少ならず又た大豆の檢査は從來慶尙南北兩道のみ施行しつゝありしが大正五年に至り忠淸南道及び咸鏡南道の二道も亦之を實施するに至れり

△商業會議所　朝鮮商業會議所令に基き大正五年中商業會議所を設立したるは仁川、群山、木浦、大邱、釜山、平壤、鎭南浦、元山の八箇所にして之れに大正四年中に設立せる京城商業會議所を合し九箇所に及べり何れも其の基礎鞏固なるを以て將來有効に機能を發揮し商工業の改善發達に資する所少からざる可し

大正四年朝鮮重要物產同業組合令の發布を見たるが本令に依り組合を設立することを得可きものは朝鮮の現狀に鑑み大正五年五月官通牒に依り米、大豆、牛、豚、家畜、棉花、繭、果實、織物、紙、釀造品等及び之と密接の關系を有する業に限ることゝなり

偖ほ臺灣總督府の主催に係る臺灣勸業共進會、山形縣主催の奧羽六縣聯合共進會に際しては多數の朝鮮物產及び統計圖表等を出陳し殊に臺灣勸業共進會にありては賣店を設け朝鮮の特產品を即賣し其の紹介に努むる處ありたり

武内桂舟畫伯歲旦試筆

九、鐵道

△貨客輸送　大正五年に於ける朝鮮鐵道運輸の狀態は旅客にありては夏季水害及び虎疫流行の爲め其の減退を見たりしも秋季に至り漸次良好に向ひ前年に於ける共進會を含みたる成績に比するも倚ほ優に良好なるものあり乃ち人員に於て約二十萬人收入卅四萬八千圓の增加となり又貨物運輸は年初以來逐月順調の發達を示し殊に出穀季に於ける米豆の出貨は空前の盛況にして其他一般貨物の荷動き亦活氣を帶び加ふるに船腹の不足は益々其度を高め各驛に於ける堆積貨物夥しきものあるに至りしを以て鐵道局にては極力車輛の供給臨時列車の運轉を行ひ以て專ら之れが捌貨に努力するの狀態にあり乃ち其の成績を昨年に比すれば輸送噸數に於て二十三萬七千噸收入六十六萬四千五百圓の增加となれり

△作年の重要事項　今各月に於ける鐵道重要事項を擧ぐれば左の如し

二月　京釜線改良工事大田芙江間竣成し從來の最急行勾配は總て百分の一に緩和さる、朝鮮輕鐵の經營に係る慶北大邱浦項間及び慶州東萊蔚山長生浦間百十五哩に亙る輕鐵敷設を許可さる

四月　東京にて第五回日滿旅客及び貨物連絡會議を開き日露支各關係鐵道代表者參集せり

五月　京城に於て第四回日支鐵道聯絡會議を開く支那國有鐵道鐵道院滿鐵及び朝鮮鐵道の各代表者列席の上案件を凝議す

七月　湖南線木浦松汀里間の隔日運轉の列車を每日運轉に改正せり又京元線に於ても一往復なりし元山、漢江間の列車を南大門迄延長し南行直通列車を二回とし同時に南大門、關渓間に北行列車一回を增發せり

九月　咸鏡線文川永興間二十一哩四分運輸營業を開始す又一般荷主に鐵道小荷物便の利用を增加せしむると共に其の取扱方法を簡易ならしむる爲め釜山大邱仁川平壤に各一箇所京城に二箇所の內國通運の請負ひに係る小荷物取扱所を設置せり

十月　三線連絡運賃問題に付東京に於て各鐵道代表者會合解決

十一月　京釜線改良工事若木金泉間竣成に付同區間に龜尾大新の二驛を設置し金烏山停車場を廢止せり　咸鏡線北部淸津蒼坪間三十二哩の運輸營業を開始す、對共益社大豆

十二月　特約運賃の範圍を擴張せり

十二月　歲末に至り鮮內各地よりの出貨未曾有の盛況を呈し釜山埠頭に堆積せる內地線行き貨物の最も多き時は五千噸以上に及びたるが其の主なるものは米と豆なり

松村六々先生歲旦試筆

鞦韆と傀儡

八木奘三郎

傀儡

○傀儡は和名『クヾツ』と云ひ其の使人を『クグツマハシ』と呼べり、卽ち歌舞伎人形の類にて昔は南方の蠻人間より入て支那に行はれ、尋で日本に流傳せり、然れども此風朝鮮に入らざりしと見へて、古來曾て其記事なく、又現在の土俗中に類似の戲を見ざるは寧ろ一奇と謂ふ可し、蓋し此ものゝ起源は諸說あるも、列子に周の穆王の時、巧人偃師なるものありて木人を作りて能く歌舞せしむ、終りて後、木人目を瞬き、手を以て王の左右を招く、王怒つて偃師を殺さんとす。偃師恐れて之を破るに、皆な丹墨膠漆の類にて造りしに過ぎずと云へるもの最も古し、此他漢の高祖が匈奴を討ちて平城の圍みを受け、其通路を失せし際冒頓の妻一方の大將として陣々を固めしが陣中彼女の嫉心强きを探知し、美人の像を造りて城上を往來せしめ、暗に冒頓が此美姬を得るが如く仕向けしかば、彼女忽ち嫉心を生じて其軍を撤し、直ちに夫軍に合せし爲め、高祖間を得て逃れしが、傀儡は此時に昉つて造られしとの一說あり

○然れども斯る遊戲、音樂の類は案外蠻人間の風が開明人の社會に移りて盛行することゝ、ダンスの根源が蠻族より來ると同樣にて其例枚擧に遑あらず、されば傀儡も恐らく右の類ならんが、唯だ開明人は之を改良し、之を變化し、一見系統を異にするやの觀を生ぜしむるにより世人其淵源を覺らざる場合往々に之れあり、現に此傀儡の如きも蜀の孔明の妻は工夫を加へて實用的となし、家事の召使ひに供せし爲め、孔明は之を見て更に木牛流馬を造れりとの古記あり、已に此人形も斯る賢妻、大智の人物に因て改造せられし跡あれば、隨て東半の如き智者の發明に歸せしならんが、其實蠻族の遊戲に出で、漸次支那、日本等へ流傳せしものと見る方穩當なる可し。

○以上は簡單なる記事に過ぎざれども元來遊戲研究は中々に興味あつて且つ頗る有益なるものなり、されば歐米の人類學者、人種學者は往々此研究に熱中して種々の著述を試むる譯なるが、夫等の書中には紙鳶の起源は東洋に在つて、獨樂の本源は歐洲に出づ等との說を出せし人もあり

○又武藝圖譜には射柳、擲毬の戲れは遼の土俗なりと記し、又和漢横笛の源は北胡に出づなぞと支那書に在り、要するに斯る系圖調べは最も面白く最も有用なるにも拘はらず、世人の注意するもの甚だ乏しく、就中朝鮮の關係書類は至て少きにより聊か同感者の留心を望み兼て新春の一興に供せんが爲に此文を草せり(完)

大正五年の財界所感(二)

漢城銀行專務取締役　韓相龍

正貨激增

我帝國貿易の消長は前述の如し而して輸出超過の關係より正貨の流入增加し漸次累積在內在外合せて遂に七億萬圓以上に達したり。之れ戰前卽ち大正三年七月の三億五千萬圓に比すれば恰も倍額したるものなり。而して日本銀行兌換券發行高如何を觀れば十月末四億六千八百八十萬圓にして上り前年同月に比し一億二千五百萬圓の增加を示せるは財界の情勢茲に到著したる自然の作用なりと雖、畢竟正貨の激增は延て通貨膨脹と爲り物價騰貴の原則に支配せられて輸出貿易上阻害を被むるに至るの虞あるを以て、中央政府は財界の趨勢と正貨の激增とに徵して專ら外債消却、續て露債の應募、對支放資、英債引受其他國債、地方債等の拂込行はれ又一面民間に在ては一月以降十一月迄の間に於て拂込まれたる社債六千三百二十七萬圓、株式二億七百二十壹萬圓餘に上りたるは正貨增加の爲なるべし。更に又株式界は引續き好況を呈し就中主力株など殆んど突飛的奔騰を示し之れが資金相應巨額なること其他租稅及び年末決濟資金の需要品彼是資金の移動莫大なるものなりしが財界は幾分の緊縮を視たるも大體上平穩の狀態なりし外債應募の一事は耳新らしく聞ゆる處なるも帝國財界の偉力現出せられたるものと解すべし這は正貨利用策として最善の方法とも云ふべく之れを以て物價の騰貴を制し財界を調和し對外債權の擴張により更に貿易の發展に貧するは實に萬全の策なりと謂はざる可からず

朝鮮貿易の趨勢

以上は母國財界の概括談に過ぎず吾人は茲に朝鮮財界に就き述よる處あらんとす

其れ財界の基礎は物資の出入關係卽ち貿易の均衡を得ると否とに存す之を以て朝鮮貿易の趨勢に對すれば逐年順調に向ひつゝあるを視る。是れ蓋し產業界の振興に據る結果と運輸交通の便開けたるによる處なり。之れが數字を詳むるに客年十一月迄の輸移出入總額一億二千三百七十七萬圓にして前年同期に比較すれば二割餘の增加なり。而して貿易の均衡は一千九百四十一萬圓の入超なるも金銀地金の出超と相殺するに於て六百三十萬圓の入超を示せり。

朝鮮財界に及せる戰亂の影響

左あれ朝鮮に於ける歐洲戰亂の影響としては表面上比較的輕微なるが如しと雖も、之を詳細に觀測するに及びて其尠少ならざるを覺ねたり。這は如何と謂ふに近年物價は益々昂騰の一方に偏し綿布、綿絲、金巾類、打紐、石油、燐寸、金物類、洋藥品雜貨等總じて昂騰を示し品類によりては數倍數十倍暴騰せるの事實あること又米、大豆、雜穀、牛皮等市價昂騰せること之なり。尤も米の騰貴原因は母國鏈入不足古米減少の理由に存するものありて、鮮地市場も從つて昂騰の趨勢となりたり。大豆滿洲產は銀價高の爲め輸出澁滯せると北海道產減收の結果は專ら朝鮮大豆を迎へつゝありて勢ひ市價向上を來せり。而して牛皮に關しては極めて見安き理由ありて奔騰を示すものと謂ふべし之れ主として軍需品の原料として需要頓に激增したる爲めなり。更に又米穀に就て謂はん、米價の騰貴を母國鏈入不足古米減少によると唱ふれども、之亦時局の好影響により正貨激增通貨膨脹の原因も騰貴原因に包括し得べきものと思はる。而して一般物價の昂騰せるは詮するに歐洲戰亂の影響と認め得べし。

農產力增進

朝鮮半島の物資生產能力は總督府施政以來著しく進步し卽ち農產品鑛物產品海產物其他一般生產力增進し將來益々開拓增進の餘裕綽々たり就中農產品の產出能力如何は朝鮮財界の倚つて繫かる處なるを以て政府當局の督勵の許に農事改良種子選擇作付反別の增加其他蟲害驅除、旱水害防備施設等孜々營々行はれ、益々生產能力の發達を來したるものとす。茲に農產品數種に就き其產額を聞くに米穀一千百四十萬石大豆二百八十萬石雜穀一千十萬石棉花四千五百萬斤等にして其他幾多の農產品を綜合せば約三億萬圓なりと云ふ。之を始政前の一億五千萬圓に比すれば僅々數年にして倍額に達したるは非常の進步なりと云ふべし。而して此進境は將來と共に底止することなく益々增大なるを想到すると共に國利民福上大に慶賀する處なり。昨夏南鮮地方に於て多大の水害を被りたりと雖も全鮮米穀の收穫高は一千二百四十萬石に達し稀有の豐作なりしは之れ作付反別の增加と農事改良の行はれたる結果にして多少の天災は敢て大なる打擊たらざるに似たり。

金融界の活動

而して昨秋大收穫の好影響は財界の活況を促し、時恰も母國米價昂騰を報じたれば一段の躍進を呈したり、從いて各地市場續々來集する穀類は其數量日を逐て增加し、同時に地方購買力の增進も之れに隨伴し、綿布、綿絲、金巾、石油、燐寸、鹽干魚其他雜貨の賣行活況を現し頗る好景氣を帶び來りしかば、春來緩漫を持續したる金融界の動靜は茲に惰眠を破りて異に活動を開始したり從て資金の需要頻繁を告げ預金減少貸出增加を示したるは秋季に於ける每年の例なりと雖も財局の影響は物價騰貴を導きたると豐作の結果穀類資金多額の需要喚起したるは例年の比にあらず。爲めに一般の金融は漸次繁忙に傾きたり當時朝鮮銀行券發行高四千七百萬圓臺にして將に五千萬圓に達せんとするの概を示し、前年最高發行に比すれば約一千四百萬圓の增加なりしは未だ曾て之なき處にして如何に朝鮮財界の膨脹著じきを證すべし

◎聯合國側 對米國回答 一週間以内に發せられん

米國大統領ウヰルソン氏の講和提議に對する聯合國の回答は一週間以内に發せらるべし而して最も信頼すべき筋より探知する所に依れば此の回答は極めて率直なる上友誼的にして米大統領のみならず米國民全體をして一讀能く聯合國の立場を理解せしむべし多分同回答はウヰルソン氏の通牒が獨逸の通牒と殆ど同時に聯合國に發せられたるに依り聯合國が受けたる種々の感情を率直に言明しウヰルソン氏が聯合國と敵國との精神的に立場を異にせる所以を識別し得べき事を信ずる旨を述べウヰルソン氏が講和提議を爲せる動機が全く善意に出でたる事を充分に認め又米國市民の爲め聯合國の目的を說明し講和の基礎條件として左の諸項を要求すべし(倫敦電報)

一、敵國が目下占領し又戰爭以前に聯合國より奪取せる土地の回復
二、白耳義、佛國、塞耳維等の爲損害賠償を爲す事
三、波蘭の統一
四、墺匈國内にある伊太利人スラブ人羅馬尼人を各其の民族主義に從ひ解放する事

◎獨宰相瑞西に到る

獨逸宰相ビユーロー氏は還回瑞西に著せり目的は中立國に講和運速成運動の故ならん(倫敦電報)

◎獨逸の離間運動

獨逸は米國と聯合國側との離間に努めつゝあり(桑港電報)

◎青木中將招聘成立

青木中將を支那大總統府顧問として招聘する契約案は北京政府日本參謀本部外務省等の承諾を得たれば既に決定したるものにて中將は十日頃歸京し北京に赴く可く契約調印は中將北京著の上行はるべしと云ふ(東京特電)

◎兼任内務總長

范源廉氏は内務總長を兼任せり(北京電報)

◎吉長鐵解決か

吉長鐵道借款交渉は圓滿に解決せるが如し(北京電報)

□新年御宴

五日宮中に於て新年御宴の御儀ふしあり聖上陛下出御の上勅語を賜はるべし(東京電報)

□兩陛下御避寒

天皇皇后兩陛下には月末御避寒の爲葉山御用邸に行幸啓三月迄御滯在遊ばさるべしと洩れ承る(東京電報)

◎墨總領事逮捕

紐育駐剳墨國總領事は大統領ウヰルソン氏の輸出禁止令を破り兵器彈藥を墨國ヴエラクルーズ港に積み出さんとする密議に關係せりとの嫌疑を以て逮捕せられたり(紐育電報)

◎政治始と初閣議

四日宮中に於て政治始式を行はせられ内閣に於ては初閣議を開き寺内首相以下各相參集新年の挨拶を交換し散會せり(東京電報)

◎山口補缺選擧

山口縣補缺選擧は大岡育造國光五郎の兩氏立候補を辭退せる爲め陸軍少將古屋康民氏寺内首相より推擧さる可し(東京電報)

◎秋季特別演習

本年秋季特別大演習を京都地方に於て擧行する事に内定せり(東京電報)

◎米觀光團旅程

米國實業觀光團は來る二月六日東京發支那を經由同月十五日奉天より京城に向ひ仁川より一旦東京に歸る可し(東京電報)

◎總督邸午餐會

長谷川總督は四日午後零時三十分より入京中なる練習艦隊岩村司令官以下艦隊幕僚等八名を官邸に招待午餐の饗應あり總督府側よりは山縣政務總監以下古海警務總長、釜屋高橋兩武官、荻田局長、齋藤大島兩副官、遠藤、神田兩秘書官、藤波通譯官等陪席し又た軍よりは秋山司令官、野中副官、白水參謀長、師團よりは立花師團長大森副官等參列したり

◎總督邸新年宴

長谷川總督は五日午後六時三十分より山縣政務總監以下總督本府の勅任官並に所屬官署の長等を官邸に招待新年宴會を催す筈なるが、尚ほ秋山軍司令官、立花師團長等も招待列席す可し

◎總督府御用始

總督府にては四日午前十時より御用始の式あり府内高等官以上の職員一同は第二會議室に參集山縣政務總監の服務規則朗讀長谷川總督の訓示あり了つて判任官一同は各所屬長官局長室に參集訓示を受け雇員一同は各課長室に集合挨拶ありて一同十一時退廳したり

歲旦試筆 豐永博士

◎各官廳御用始

▲京畿道 京畿道にては四日午前十時半より廳員一同宣化堂に集合し松永長官より一場の訓示あり更に官吏服務心得を朗讀して終了せり

▲京城府 四日午前十時より廳員及び公立各學校長等一同參集金谷府尹より官吏服務心得を朗讀し約二十分間の後ち散會せり

▲總監部 警務總監部及び憲兵隊司令部にては四日午前九時三十分司令部會議室にて御用始式擧行各高等官判任官雇員全部參集古海警務總長勅諭及び官吏服務規律の朗讀ありたり

▲警務部 京畿道警務部並に同憲兵隊本部にては四日午前九時十分府内各隊署長及び隊部職員全部參集隊部部長の軍人に對しては軍隊勅諭文官に對しては官吏服務心得の朗讀ありたり

◎岩村司令官入京

仁川碇泊中なる練習艦隊司令官岩村海軍中將は三日午後一時南大門驛著列車にて入京巴城館に投宿せり

◎岩村少將歡迎宴

岩村練習艦隊司令官入京に付き宇佐美長官、松永兩長官、持地局長、古海警務總長、鈴木局長、秋山參事官、荻田局長、久水、久芳、兩課長、神田秘書官、藤澤通譯官等は四日午後六時より司令官を喜久家に招待歡迎宴を催しく

◎練習艦隊乘組員入京

練習艦隊谷口常磐艦長齋藤八雲艦長、參謀課其他將校數名は三日午後五時入京巴城館に投宿し四日は各方面の歡迎會に臨みたり而して其他の將校下士官候補生水兵六百七十二名は四日午前八時十五分仁川發臨時列車にて入京し旭町より南山を經て景福宮に入りて晝餐を認め昌德宮を觀覽し午後三時二十分發の列車にて仁川へ歸艦せり

◎練習艦隊乘組員

二日仁川に入港し碇泊中なる練習艦隊常磐及び八雲の兩艦乘組員の重なる者左の如し

司令官(少將) 岩村俊武

▲參謀長(中佐)高[illegible]▲同(大尉)佐藤市郎▲機關長(機關大佐)重村義一▲副官(大尉)鈴木美孝▲司令部附(大尉)蛭谷信太郎

▼軍艦(常磐)

艦長(大佐) 谷口尚眞

▲副長(中佐)小山田繁蔵▲航海長(少佐)福島貫三▲砲術長(少佐)高原牛[illegible]▲水雷長兼分隊長(少佐)小栗信一▲分隊長(少佐)岩淵安五郎、(大尉)山本雅一、(同)深澤孝敦、(同)深水恒雄、(同)町田豐、(同)關根郡平▲乘組(中尉)高塚省吾、(同)畠山耕一郎、(同)深澤幸太郎、(同)吉田榮之助、(同)志村寛代作、(同)田代森平、(同)初淵精一▲機關長(機關中佐)木田盛德▲分隊長(機關少佐)丸山末男、(機關大尉)澤田倉三、(同)丸山久▲乘組(機關中尉)清水與[illegible]、(同)松村和助、(機關少尉)[illegible]▲軍醫長(軍醫少佐)粟田保三▲乘組(大軍醫)田中朝三、(中軍醫)小林義雄、主計長(大主計)武東知義▲乘組(中主計)米花德太郎、(少主計)木寺篤衛

▼軍艦(八雲)

艦長(大佐) 齋藤七五郎

▲副長(中佐)[illegible]▲航海長(少佐)松枝秀夫▲砲術長(少佐)清[illegible]▲水雷長兼分隊長(少佐)[illegible]

新年所感(上)

三井物產會社京城支店長 高野省三氏談

□戰局の前途と日本經濟界

歲月は暫らくも息まず、早や大正六年を迎ふるに至つた。此時に方り聊か迎新所感の一端を陳べ江湖の敎示を仰ぎたいと思ふ。

△昨年の回顧 歐洲の大戰亂は何日局を結ぶのであるか却々豫想し難い、併し孰れは兎も角として、開戰の第一年目に於ては戰爭の影響如何に就て天下を擧げて警戒注意を怠らなかつたが、其年の終り頃より我日本の經濟關係は幸にも順調に進き、第二年目は更に好調で、昨大正五年に至りては益々順調を來し、各方面とも總て好都合に運んで來た事は今更事新らしく說く必要はない。但だ大正五年の終に於て料らずも電光一閃講和問題が突發したる爲めに神經過敏なる我邦の財界が幾分か攪亂された如きは遺憾の次第であるが大體に於ては吾人の期待以上に都合好く大正五年を送つたと言ひ得る。

△前途を如何 今や新たなる大正六年を迎ふるに當りて、年頭我日本の經濟界にとりて最も注意を要するは、即ち例の講和問題が如何に成行くべきやと云ふ事である。其の成行如何は即ち各方面に對して良くも働らき惡くも働らく一大勢力である事は云ふ迄もない事である。今假りに聯合各國が聲明せる如く、戰爭が猶ほ繼續することになれば、日本としては益々經濟界に於て都合の良くなるといふ事は昨年に於ける總ての例に徵しても明かである。乍併戰爭が相當永く續いた關係上、世界の戰局も今後餘り長くは續くまいといふ考へも無きにしもあらねば、徒らに前年の如き浮調子一本で大正六年を迎ふる事は考へものであるかも知れぬ。故に前途に對し絕えず深き警戒注意を拂うて、總ての事を畫策し實行に努めねば、不測の禍に遭遇するかも知れない。

△財界の人爲作用 假に講和が相當條件の下に締ると想像し其時我邦の經濟界の受くる打擊は如何といふ事を豫想すれば、特に寒心に堪へないものがある。殊に時局關係の好影響を受けたる諸種の事業及び之に關聯せし事柄が最も甚しき打擊を蒙むるものであると思はれる。然かし、一體機敏なる經濟界は實際以上に人爲の作用に依りて其の動搖甚しき事がある故。此點に就ても吾人は深き注意を拂うて群衆心理の作用に迷はされぬやうにせねばなるまいと思ふ。

◎立花中將一行歸任

北鮮各守備隊巡閱中なりし立花第十九師團長須田參謀大森副官の一行は一日午後四時四十分龍山驛著歸任せり

◎木村理事東上

朝鮮銀行理事木村雄次氏は三日午後七時五十分南大門發列車にて東上の途に就きたるが近く吉田東京支店長歐洲出張の事ある爲其滯京は永引くべしと

◎桑原長官全快

數箇月に亙り持病の爲め臥床中なりし桑原咸北道長官は殆ど全快せりと

◎水間中佐陞叙

咸北警務部長水間憲兵中佐は此程勳三等に陞叙された

◎仁川雜信

▲楠野府尹披露宴 三日午後一時四十分仁川驛下車着任したる楠野新仁川府尹は五日午後五時より仁川官民多數を仁川ホテルに招待し新任披露宴を催すべく四日は堀内書記を隨へ市内各官衙及び重立者を歷訪したり▲軍艦觀覽許可 仁川に入港中の軍艦常磐、八雲の兩艦は來る七日迄毎日午前八時より午後四時迄一般の觀覽を許す由▲木杯下附 赤十字社より仁川府堀内書記に對し功勞に依り木杯三つ組一重鎌田氏に對し純金製カフスボタン一組をクラウセン梅子ベシネツト花梅子の兩夫人に金製ピンを下附したり

◎釜山の新年

▲各官廳年賀會 釜山府廳を始め各官廳にては一日午前九時より新年祝賀會をなし兩陛下の萬歲を三唱し其より祝賀の宴を開き退散したり

▲各學校元旦式 各學校にては午前八時職員生徒一同講堂に參集し東向して兩陛下の萬歲を三唱して退散したり

□叙勳を祝して大塊翁に寄す

旭たなびツト立ちし大なる雁に 鳥兎
其九移民の村に春ぞめき 崖城
功勞の共古鍬よ注連うつ 鳥堂
朝鮮圖に朱貫して初日影哉 目池
鍬先に春の色添ふ旭かな 大痴
開拓の田畑の明けを雪降り 虎耳
時來りて野梅咲きけり水の音 靜軒

人事消息

▲本多靜六氏(帝大教授) 四日朝退京
▲木田盛德氏(海軍中佐)▲粟田保三氏(海軍少佐)▲高塚省吾氏▲畠山耕一郎氏▲志村寛代作氏▲吉田榮之助氏(以上海軍中尉) 三日夜入京天眞樓に投宿四日夜仁川へ

■南言北語■

英國の雜誌スペクテーターは協商國が米國に對する回答だと云ふものを發表して居るが一讀すると實に痛快なる條件許りだ▲若し全部十九條から出來て居る▲先づ其れ獨逸にして全部之を容るれば當然平和は成立する▲と共に協商各國民の目的通り獨逸は之で宜敷お陀佛になる譯だ▲其の内容の大體は先づ獨墺軍を目下の各方面の占領地から撤退せしめよ▲アルサス、ローレンは佛國に還せ其他其れ〴〵獨墺軍の占領して居る處は皆戰爭前と同じく其の國々に還して仕舞へ▲獨墺領をも加へて露國の宗主權下に波蘭王國を建設する▲君府及びダーダネルス海峽は露國に割讓せよ獨逸の殖民地は協商國で處分する▲佛白塞國全部に對し償金を出せ獨墺側で擊沈した協商國の船舶には噸數を計算して全部辨償せよ其れから中立國の船舶の損害に對しても辨償せよ▲之れでザツと戰爭に對する分は始末が付くとして其れから所謂戰後の平和に對する獨逸膺懲的の事項に移る▲先づ第一に獨逸の海軍を協商國に讓渡し聯合國で適當に處分をする▲將來の保障として協商國は獨逸政府を民主々義的ならしむる事▲獨逸を除き協商國委員管理の下にキール運河を中立せしむる事▲之を獨逸が提出すべしと觀測せらるゝ講和條件と比べて見ると殆んど丸つきりの反對だ流石の米國大統領も之れでは手を出し兼ねるのだろう其處で依然戰爭は續く事になる▲最早戰爭の終熄期などは問題ぢやない興味あるは獨墺敗滅の時期問題だ

□附錄 本日本紙四頁の外附錄二頁

□定例休刊 明六日は新年宴會翌日に付定例休刊す

商況

東京株式特電

公債直取引 [illegible]

大阪米特電 [illegible]

仁川米豆現物相場 [illegible]

大正五年各地期米納相場 大阪 一六、三二 東京 一六、九二 下關 一五、八九

●連絡船初上陸客 一日午前九時釜山入港新羅丸二等客[illegible]

天氣 はれ [illegible]

家庭團欒號 新年號に限り 定價四十五錢 郵稅三錢五厘
畫報五十頁の内
□兩陛下と三殿下御近影(オフセツト口繪)……鏑木清方
△春の人(三條公爵家の三令嬢)
△德川公令嬢と鷹司公令嗣の成婚
△内と外
△高安博士夫人の趣味生活
□三令孃の筑波登山(十餘景を寫す)
△光榮の人々(御前揮毫と御前講演)
△賑はしき田健治郎大臣の家庭
△花園と果樹園(松崎侯、稻葉子令嬢)
△懸賞「まちがひ搜し」(懸賞百名)
□共和氣靄々の寫眞滿載
新年附錄
□小說 雨夜の姿 泉鏡花
□小說 豐年踊り 長谷川時雨
□小說 相見ぬ人 久米正雄
□小說 悲しき驚異 小野美智子
□小說 花賣娘 伊藤銀月
讀物百餘頁の内
□開運の鍵 新渡戸博士
△財產慾の權化 富子夫人 白柳秀湖
△社交界の鳥瞰圖 佐藤顧造
△繼子六人の我家の團欒 八十島夫人
△群玉峰 幸田博士
□名流家庭の自慢(三名士五夫人)
△奇しき緣(活動小說) 渡邊千作
△滑稽諷刺「意外の招待」 奧野他見男
△女學校ローマンス T女記
△愛の勝利(連載小說) 小栗風葉
□夢遊病者 雨夜の品定め はゝき草
淑女畫報
善美を盡せる 新年號
□實業全國各地 書肆
□東京本町 博文館
□辨財天の說(識見時流を拔く二十餘頁に亘る長論文) 文學博士 谷本富
□實驗衛生 凡婦長命術 小貝良子
△愚人のいたづら事 三角錫子
△實婦人の玉手箱 九曜星
□女祐筆の昔話 老女 梅ヶ枝
△詩人紅蘭(閨秀佳話) 野村朱鱗
△思ひ出の記 松代千鶴
□野乘別裁 織田信長の内寵 大村嘉代子
新年附錄
□小說 調布の娘 江見水蔭
□小說 伊達羽子板 泉鏡花
□小說 戀の夢 長田幹彥
□小說 新浦島譚 荒磯漁郎
□家庭夜話 變身術……竹取の翁
△貧生の爲に働く米國女學生 岩波時子
△隨筆「春がすみ」 源むらさき
□毒蛇(長篇小說) 内藤千代
△新意匠盆花の風情 尾崎恒子
△賣卜先生の糠袋(世間聞話) 卜里老猿
□若き女の挿話 獨身ロマンス 越路の雪
□對鏡新語 與謝野晶子(新郵味新敎訓に滿てる注目すべき華篇)
女學世界
大刷新 特別增大號 新年號に限り 定價金三十錢 郵稅二錢五厘

東京期米特電
四日初相場　二月限　一七、三五　寄付
（前略）三三、〇〇　三五、〇〇　二七、〇〇　二六、〇〇

下關期米特電
四日初相場（寄）
△中限一節十二圓三十錢五　十九錢出來高六百石　四節十七錢二十錢相場値段　錢二節二十五錢三節二十錢
△先限一節十二圓八十錢七十錢八十錢九十錢七十八錢七十錢八十八錢七十九錢八十錢八十七錢
前場　寄付十二圓八十錢　止め値十二圓七十九錢　高値十二圓八十錢　安値十二圓七十五錢　出來高四萬八千百五十石
一月限　二月限　三月限……一萬五千二百石　八萬四千四百五十石

●聲高らかに御製の軍歌
脚下に騒ぐ古戰場の波――岩村練習艦隊司令官の談

三日入京巳城館に投宿中なる練習艦隊司令官岩村少將は往訪の記者に語つて曰く

今度は上陸の度毎寒さの御馳走を喰べる如うな氣がする京城も却々寒いが而し舊臘二十六日大連に上陸した時の寒さは今日の寒さの比ではなかつた、金州の南山見學の豫定であつたが餘り寒氣が甚いから見合せては如何うだらうと云ふと候補生の方から

■何に之れ位の寒氣 なら大丈夫だと勇み立つのでそれなら行つて來るが宜からう、と云ふ處で豫定通りの見學を實行した、若い者が元氣旺盛なのは何より、賴もしいものだ、而し又予の方から云ふと却々迂つかりとして若い者の元氣に任せて暴虎馮河の事をやつて間違ひでもあると國家に對して申譯が無い譯だからね、旅順へ行くとお馴染の白井中將が居られて非常に歡待して貰つた、黄金山鷄冠山等の戰跡見學は候補生一同の樂しみにして居つた處だけに

■非常の興味と注意 とを惹いた要港部司令官黒井中將は予が京城に居つた頃練習艦隊を率ゐて仁川に入港した事のある人で其の時の緣故で非常に斡旋せられ候補生一同を偕行社に招待して支那料理の御馳走があつた、それから威海衛を訪問すると歐洲開戰以來威海衛でも軍艦は珍らしい位であるから非常に歡迎を受けた、ロバートハート提督からも候補生一同に對して歡迎の意を示され大いに双互の友情を温めるを得た、威海衛訪問さ

■英國海軍の厚意に 對しては直ちに本省の方へ電報を打つて置いたそれから一月元旦は裏長山列島で迎へた此の海上で新年を迎へる事は殊の外に吾々始め候補生一同の感興を惹いた初日出を拜し皇城を遙拜したる後艦長は候補生一同を艦上に集めあれが海洋島であるこれが黄海であると直ちに艦下の波を指さして當年我海軍の戰の跡を一々指點して講話し今日日本の發展の基礎は實に

■此の海上屢次の戰 に由つて得たる處であつてこれ皆な大元帥陛下の御稜威の然らしむる處なりと説くや一同粛然として襟を正し更に聲も新に大元帥陛下の萬歳を三唱し指導官の音頭にて 明治天皇陛下御製の『頭は菊月半過ぎ』の黄海々戰の軍歌を三唱した潮風凛烈たる甲板上に我が未來の海軍將士がこの勇ましい合唱を聞いて予は感涙を禁じ難いものがあつた、今年は

■實に好いお正月を した軍艦に乘つて居つても大抵は何處かへ入港投錨して元日を迎へるのが常であるのに今年は斯樣の感興を持つて元氣溢るゝ聲を聞きながら新年を迎へるとは何んたる愉快の事であらうと悦んで居る

●練習艦隊乘組員市中見學

仁川入港の練習艦常磐、八雲乘組の海軍士官候補生九十餘名は京城見學の爲め四日午前八時十九分南大門驛著常磐乘組候補生は指導官岩澤少佐に引率せられ八雲乘組候補生は指揮官小早川少佐引率し午前九時總督府に於て司候式あり其の際總督より候補生一同に對し懇篤なる訓示あり正午京城ホテルに於て總督より候補生及び準士官以上に午餐を饗せられたり其の折秋山總督府參事官が朝鮮に關する一場の講話あり午後一時から一同は總督府より附けられたる案内人に導かれ電車にてパゴダ公園昌德宮、動物園、博物館、植物園、景福宮、總督府博物館等を巡覽し午後四時京城ホテル原金旅館に分宿し五日午前八時五十五分歸仁の豫定なり猶下士卒以下百數十名は警務總監部よりの案内にて市内各所を見學し四日午後二時四十分南大門發歸艦せり

歩調揃へて
練習艦隊乘組員の京城見學

●スチンソン嬢の初飛行
鮮やかな宙返り

スチンソン孃は三日午後一時三十分大阪府市岡廣場に於て飛行を爲したるが當日は風速二十二米突にて地上の歩行さへ困難なるに孃は平然機上の人となり滑走僅かに二十米突にして離陸したるはレコード破りと謂ふべし孃は三千五百米突の高空より得意の宙返り四回を行ひ同四十二分著陸したるが空中の寒氣殊の外酷烈なりし爲め孃は著陸後少時は談話の自由を得ざりしと云ふ午後三時五十五分孃は再び機上の人となり三千呎の高空より宙返り五回を行ひ四時五分著陸せるが年齒僅かに十九歳花の蕾き妙齢の令孃が烈風を物ともせず勇敢にして華々しき飛行振りは觀客をして唯感歎の外なからしめたり（大阪特電）

●關門地方 暴風雪

關門地方は三日以來暴風雪にて四日朝は積雪寸餘に及び風は愈々强烈を加へ門司海岸一帶は激浪岸上を洗ひ港內碇泊船の往來不能なるのみならず關門間の連絡は全く杜絶し關釜連絡船亦出港せず（門司特電）

●東京初雪二寸

二日朝東京附近に初雪あり積る事二寸に及べり（東京）

●氷華、旭光に輝く
仁川消防出初式

仁川警察署にては四日午前八時より消防出初式を擧行したり定刻常備、豫備消防隊は本署前に整列して松元署長の檢閲を受けたる後常備消防は一條の綱を猿猴の如く攀ぢて構內大樹に架せられたる高さ數丈の足場に登り救命演習をなし豫備消防は梯子登りに勇肌の意氣を現はしたり終つて青白黒及び豫備隊の四隊に分つて提灯落しをなしたるが折柄零下十五度の凛々たる寒氣に水管より迸出する水は氷華の如く氷つて仁川港内の[illegible]茂せる樹木は時ならぬ華をつけ朝暾に相映じて見る眼眩ゆく偉觀を極めたり亞いでポンプの操法水管車の操縱をなしたるが消防手は全身氷を冒ひ凍る如く寒氣激しかりしも元氣旺盛にて更らに市内を巡回行進を試み午前中全く出初式を了りたり

京城消防隊の出初式
—四日警務總監部構內にて—

●壯絶
高樓の猛火を水責めに
盛んなりし京城消防隊の出初式

京城消防隊の出初式は一月四日午前十一時より大和町警務總監部東方の廣場に於て擧行されたり定刻に先ち各警務部常備消防隊を初め京城消防組、新龍山、麻浦、桃花洞の各消防組は所轄各隊署の主任警部下士引率の下に蒸汽喞筒、腕用喞筒、機械馬車、機械馬車、發動機喞筒、水管車、機械梯子等の各器具を携へて式場に參集せり之より

▲山縣政務總監 は高橋總務府附武官と共に臨場し其他松永京畿道長官、古海警務總長、山形、亥角中野、永谷等の總監部各課長以下所屬憲兵警察官等多數の臨席あり軈て定刻となれば指揮官京城憲兵隊副官吉田中尉指揮の下に各組員一同整列中隈部警務部長は呼子昌德宮、宮舘本町、松井鍾路小山田京城、矢野龍山、警務部西鵬警視の各隊署長を隨へて臨席し指揮官吉田中尉の報告を受けたる從人員及び器具の點檢をなし終れば小熊主任警部指揮の下に消防演技に移りたるが凛威凛烈

▲氷點下十九度 を示したるも一同元氣頗る旺盛にて救助袋の使用梯子乘り等より其他數番の演技あり何れも鮮やかなる手際を見せて喝采裡に終了し豫て場内の一隅に設らへられたる高さ四丈餘尺の高樓の頂上より猛火炎々と發火すれば茲に假設的消防演習開始せられ常備消防隊を初め各組にては直ちにホースを引き伸ばして消防に著手し噴出する水煙は見る間に氷柱と化して奇觀を呈したるが間も無く鎭火したり斯くて一同場の中央に方陣整列し隈部警務部長より一場の訓示及び目錄の授與あり勤十年以上の勤勞者に精勤賞を授與せり次いで古海警務總長、金谷府尹よりも各組に對し酒肴目錄の下附あり

▲玆に目出度く 出初式は滯りなく正午十二時を以て終了せり尚引續き南大門消防詰所警務總監部間を指定し水管自動車隊と水管馬車隊との到著競爭を行ひたるが自動車は僅か五分三十秒にて到著の上發火したる小火を鎭火せしめたる後水管馬車隊は四分遲れ即ち九分三十秒を以て到著したり是れより組員一同は總督邸、警務總長邸、昌德宮の三所を賻訪して敬意を表したる後解散せり猶十年以上勤續消防員次の如し

▲十七年勤續京城消防組小頭安達久次郎▲同消防手青木五助▲十二年勤續京城消防組小頭中島儀三郎同消防手山口久吉▲十年以上勤續京城消防組頭心得伊藤友松、同消防手太田雄太郎、松田源次郎、下岡福太郎、古賀才太郎、荒谷正太郎、近藤福吉、常備消防隊部長岩崎啓六、橋本十太郎常備消防手金長煥、金允洙、梁聖采、金光燦、朴熙大、申殷植、申璟壽、金永夏

●熊本地方強震

三日熊本地方に強震ありたり（東京電話）

●自動車河中に墜落す
即死二名重傷三名

新義州發義州行自動車が舊臘三十一日午後新義州を距る約一里半の地點なる緑橋に差懸りし際過つて河中に墜落したる爲め即死者二名重傷者三名輕傷者數名を出し車體粉碎せり急報に接し新義州署長は警察醫其他を從へ現場に急行救護に向ひしが詳細は猶判明せず

●大阪相撲番附

大阪相撲正月場所新番附は三日發表されし七日より千日前にて興業の豫定なり（大阪特電）

東の方		西の方	
大關	朝日山	大關	朝日松（昨冬除名に就き除く）
大關	不知火	大關	小染川
關脇	宮木山	關脇	大門
小結	大泉	小結	時の矢
前頭	朝千島	前頭	有若
同	大錦	同	玉櫻
同	荒岩	同	琴の浦
同	金の花	同	朝日潟
同	西の森	同	朝日嶽
同	初風	同	荒虎
同	駒ヶ嶽	同	時ヶ嶽
同	大砲	同	小若島
同	大嵐	同	日出山
同	海山	同	上州山
同	朝山	同	玉手山
同	鳳車	同	響矢

張出關脇　加古川
前頭　小緑

●露國僧侶宮廷にて慘死

有名なる露國宮廷附僧侶ラスプチン氏はユスポフ宮殿に於て何者にか慘殺されたり目下犯人嚴探中なるも多分親獨派の所爲ならん（東京特電）

●釜山の出初式

釜山消防組は四日出初式を擧行せり（釜山特電）

●珍らしい寒さだ

四日は最低零下十七度今年の元日からの寒氣は平年の寒氣に比べて平均七八度宛寒く元日は最低零下九度二日は零下十二度三日は零下十六度四日の最低温度は十七度にして國境中江鎭方面は三十三度最も温暖地方なる木浦地方に於ても零下六度を示し且つ多少の降雪ありたるが其の他は概ね晴天にして朝鮮地方は高氣壓の中心點なるを以て玆兩三日は寒氣强かるべしと

●玄海灘波高し
連絡船の缺航

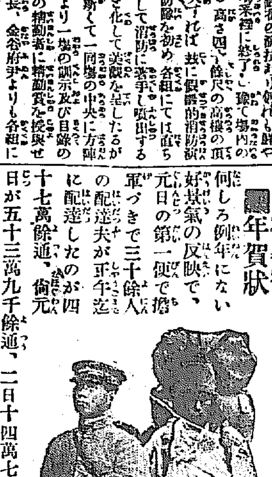
海上風波の爲四日午前下關發聯絡船對馬丸は解纜せず從つて五日午前釜山發聯絡船は缺航すべく猶ほ内地よりの郵便物は一日延著すべし（釜山特電）

●京城の大公園計畫

京城府にては豫て一大公園を設置せんとの計畫あり今回農科大學教授林學博士本多靜六氏及び林學士田村剛氏を招聘し去る一日より三日間石原事務官其他案内の下に南山を一週し種々調査せし結果三日府廳に於て調査成績を發表し本多博士は今朝一先づ歸東せるが田村氏は猶引續き調査すべしと同公園は何分大面積を抱擁することとなれば先づ經費より調査せざる可からずと

■年賀狀

何しろ例年にない好景氣の反映で、元日の第一便で擔軍づきで三十餘人の配達夫が正午迄に配達したのが四十七萬餘通、倘元日が五十三萬九千餘通、二日十四萬七千餘通、三日十二萬八千餘通



えんげい

▲黄金舘　五日より寫眞全部取替へ驚海はいよ〳〵佳境に入り新派連鎖劇として『呪の炎』も出來せり尚餘興として桃中軒雲奈の出演あり新寫眞は次の如し
▲大活劇第二驚海三編四編▲舊劇國定忠次▲西洋新派連鎖劇呪の炎（大井五味深澤大一座）▲西洋新派悲話アフリカ探險の卷其他滑稽實寫等々
▲浪花舘　當門助六一座の落語手踊音曲等にて好評

うわさのうわさ

▲お芽出度い『謹賀新年』の中から面白相なのを二三擧げて見ると▲先づお札博士のスタールさんは通譯の前橋君と聯合でハッピーニウイヤとおいでなすつたはよいが意匠は全部日本趣味▲朱の繪馬堂に鳩を飛ばして奉納白蛇のお札を見せたところは有繋にお札博士の名を辱めぬものそれに鳥子の用紙に木板と凝つたところも面白い▲次に平壤の土居蛇先生は朝鮮の地圖に朝鮮產蛇の採集地を擧げて賀正と石版刷に芽出度がり▲青島妙心寺の古川大航氏は支那の古錢に玄黄北斗の干支に因むだところが面白く▲德富蘇峰先生のは百穗畫伯の老松の畫に肉筆の石版刷の恭賀新正と記したもの▲それに東京本郷西片町の井上前東拓理事のは『東風吹かば送り申さん山梅』▲お次に松井須磨子孃のは『昨秋中央興行としてアンナカレニナ爆發を帝國劇場に開演しまして以後京、阪、神、名、其他東海道筋の各地を巡演いたし十二月九日無事歸京、直ちに一月興行の準備に取りかゝりましてございます……』▲次に安東縣五龍背温泉の八幡おたまさんのは春陽山人の南畫と凝つて『お湯はきよらかお部屋は靜か寒さ知らずの五龍閣』▲俳人では東京の大塊翁が『遠山に朝日輝く今朝の空』咸興の石谷君が『國船に横ふる大蛇の飾』と橙黄子の『輪飾にかくも色づく杜かな』▲終りに總督府の秋山雅之介博士は肉筆で謹賀新正とグシャ〳〵にかいたところがいかにも博士らしい

郵送紙價改正

新聞用原紙及印刷諸材料暴騰に付全鮮各新聞社聯合大會の決議に基き大正六年一月より一ケ月分新聞代五錢を値上げ致候就ては郵便送新聞代金を今後
一ケ月分（郵税共）七拾錢
三ケ月分（郵税共）二圓
六ケ月分（郵税共）四圓
一ケ年分（郵税共）八圓
に改定仕候尤も前計算は前金御納入に限り申候左樣御了承願上候也
大正六年一月五日
合資會社 京城日報社

喪中に付歳末年始缺禮仕候
吉野太左衛門

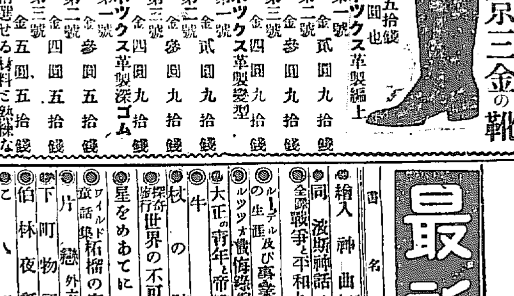
謹告
小生儀此度京城に參り候得共折りしも休日に際し然かも滯在時日短かく寔に御恩情を蒙り候方々に對し一々拜趨の暇無之欠禮仕候右作略儀新聞紙上を以て御挨拶に及び候　敬具
一月五日
海軍少將 岩村俊武

解傭廣告
横橋守雄
右者解傭致し候に付爾今弊店と何等關係無之候
大正六年一月五日
龍山 稱通
福壽洋行
山田合名會社朝鮮支店

特約販賣店募集
代謝版
東京科學工藝所

院長 醫學博士 緒方正清
大阪今橋 緒方婦人科病院
次長 醫學士 緒方祐將
ドクトル 醫學士 箕浦光雄
醫學士 高野三男
曾根源作
電話本局 一九八四番 一九八五番 一九八六番
內務省指定 緒方助産婦教育所
本科每年十一月 別科臨時入學
産婆生徒

最も信用ある東京三金の靴



ボックス長靴　半長 金五圓五拾錢　本長 金六圓也
ボックス革製編上　第一號 金貳圓九拾錢　第二號 金參圓九拾錢　第三號 金四圓九拾錢
ボックス革製短靴型　第一號 金貳圓九拾錢　第二號 金參圓九拾錢　第三號 金四圓九拾錢
ボックス革製深ゴム　第一號 金參圓五拾錢　第二號 金四圓五拾錢　第三號 金五圓五拾錢
右の品一靴は精選せる材料と熟練なる拔術を以て最も入念に製造しあれば一般紳士靴として好適なり
御注文の節は靴種類と足袋の文數御通知次第代金引換小包（送料實費）にて送附す
最新流行型新代進呈
東京市芝區愛宕下町
三金高等靴店
電話芝一六九〇番　振替東京一七一二三番

謹賀新年
全羅北道沃溝郡瑞穗面
川崎農場
川崎藤太郎
吉川清
早阪弘
齋藤信一

謹賀新年
會席御料理
高等すき燒
月の家
京城本町三丁目
電話三四七番
●新年宴會は特に勉強仕候

寫眞出張撮影
寫眞銅版、亞鉛凸版
最も熟練せる技術を以て最も廉價に迅速と可成親切を旨とし御需めに應ず
京城日報社 寫眞製版部

最新刊

書名	著者	定價
輸入 神曲	ダンテ作 古典文學研究會	二、五〇
同 波斯神話	土谷文明譯	一、〇〇
全譯 戰爭と平和 上下	トルストイ作	四、五〇
ルーテルの生涯及び事業	トマス・リンゼー作 蒲井氏譯	一、三〇
ルツソオ懺悔錄	石川戯庵譯	二、〇〇
大正の青年と帝國の前途	德富蘇峰著	一、八〇
牛	岡本米藏	一、三〇
杖の跡	大町桂月	一、三〇
探奇旅行 世界の不可思議	內山舜	一、三〇
星をめあてに	ワーレス作 松本賀升譯	一、五〇
童話集 柘榴の家	ワイルド作 本間久雄譯	一、二〇
片戀 外六篇	二葉亭譯	九〇
下町物語	喜多川淺次	八〇
伯林夜話	小山內薰	六五
こゝろ	漱石	一、五〇
鴉帝艶史	三木愛花譯	九五
町の兄弟	中島英之助	九〇

京城本町二丁目 電話二〇八六番
大阪屋號書店

新刊圖書御案內

書名	著者	定價
系統的國語通覽	水野平次	一、二〇
英國の經濟的勢力	堀川美哉	一、〇〇
默仙禪師 南國順禮記	來馬琢道	五、〇〇
支那貿易案內	長谷川櫻峯	三、五〇
商業實買（上）	小林行昌	一、五〇
簡易生活百話	西村才介	六〇
英語獨習辭典	佐久間信恭	一、八〇
民事訴訟法論	岩田一郎述	二、〇〇
刑法論	岡田庄作	一、五〇
ロダンの言葉	高村光太郎	一、五〇
流轉のはじめ	小林榮子	三八
大正青年と帝國の前途	德富蘇峰	八〇
高等文官試驗問題集	巖松堂	六五

京城本町二丁目 電話一一六六番 振替京城四五四番
巖松堂書店 京城店

怒濤の月

四十 小林蹴月作 武内桂舟畫

密謀 【八】の一

『實に昨日のやうに驕らせられた事はありや爲ないよ。一體、松崎、お前もお前ぢやないか。彼の娘に最初からそんな附物がある事を知つて居る位なら、彼の大骨を折つて、花泉男爵に進物に爲るおやなかつたものを』

『所がです。私も眞個初めは知らずに居りましたもんですから、一途に只彼のお袋の語ばかりを信じて居たのが大失策の基でした。然し、それにしても、彼の後、彼のお袋が遣つて來て、何の彼のと誤詫を並べ立て

ますので、實の所、私一個の計ひで、五十圓ばかり呉れて遣つたやうな次第ですから、もう男の方には、何等のいさくさも無い筈ですがね……』

『男の方にいさくさが無くとも、肝腎の絹代が、男への心中立を守つて男爵の意志に從はないんだから、男爵の腹を立つて居られるのも、穴勝無理はないさ。昨日も現に『おい桑原君、君と松崎と共謀して、虫の附いた果物を乃公に喰はさうと企んだのぢやらう』と、斯う言つて、呶鳴り立てられるんだから堪りは爲ない』

『で、旦那、結局は、什う納まりが付きましたんです。』

『納まりの付く道理がないぢやないか。第一目的の軍需品買込問題などは、其方除けにして、只もう謝り半即して、逃げ出して來たのさ。それから、お前に相談しやうと思つても、お前は、生憎鎌山の方へ行つた後だし、昨日以來、俺は實際、食事も碌々咽喉に通らないほどに心配しきつて居るんだ。何にせよ、此處で今、男爵に寢返りを打たれでも爲たらば例の拂下げ事件ばかりでなく、あらゆる新事業の計畫が滅茶々々だからね。』

『そりや、眞個貴方の被仰る通りですが、然し、私に言はせると、男爵も男爵ですね。何も女のない國から來られた譯でもありますまいに、それほど厭がる彼の絹代さんを、無理に屋敷へ引止めてお置きにならんでも、我々の方へ窃と送り返して下すつたら好かりさうなもんぢやありませんか。然うすれば、此方だつて勿論その儘に知らん顔は出來ませんから、絹代さん以上……三倍も四倍も美しい白物を探し出して差出さないもんでもありませんでせう。』

『松崎、それがお前の素人考へと云ふもんだよ。男爵は、全く一時的の物數寄や何かでなく、心から底から彼の絹代を思ひ込んで居られるんだ、所で、その絹代が、今言ふ通りの仕儀と來て居るから、男爵の執著は、益々深くなる一方さ。加之、其處には男の意地と云ふものも、自然加はつて來て居るから、尚更大變なんだよ。』

『成程ね、其處も大きにありませうかね。』

『そこも蓋もどころの段ぢやありやしないよ。遲くとも此處三四日中には、首尾の好い解決を付けなくては、此方の一大事なんだから、何とか名智惠を捻り出して貰ひたいもんだね。』

桑原權一郎と、その腹臣の松崎兼吉とは、日比谷公園に近い、有樂町の三角形を爲したる煉瓦建新築事務所の人なき一室に於て、密談數刻に及んだのであるが、儲け事にかけては、孔明、楠も三舍を避くるほどの機敏智謀の主從も、此の問題ばかりは、眞個奈何とも手の下しやうがないのである。當惑と閉口の鉢合せを爲たやうな主從は、稍少時顏を見合つて、額を抑へて、智惠と智惠との出し較べに餘念なかつたのであるが、權一郎は、不圖掌で案を叩いて、吹つ切つたやうな聲を發した。

『おい、松崎。』

『何か名案が浮びましたかな?』

『名案か、愚案かは、自分にもまだ判りかねるが、絹代と云ふイケ剛情な女を、彼の屋敷内に置くのは、益々男爵の煩惱心を增長させるの話だから寧ろ思ひ切てその目的物を盗み出して了つたら什うだらう』

『そして、男爵に斷念せしめた上に代るべき優等品を持ち込んで行つて鹽梅好く後の調和を計うと云ふお了簡なんですか』

『先づ言つて見りや、そんなものだが、お前一つ大奮發でもつて芝居の黒頭巾の役を勤めて呉れるんだね』

『黒頭巾の役は、勤めも爲ませうが、若し仕損じた日には、それこそ、現在の儘で打捨つとく以上の大失策ですからな』

松崎は、鳥渡賛成しかねたらしい容子で、熱と兩腕を組んで了つた。

大好評を博したる ちよふやの半額賣出し 第三回當籤日は 十二月二十六日!!

一月五日 九星

舊十二月十二日丁未 本命八白 艮 殘大安。

▲八白 離間策の事有る日注意 新事見合乾の方は吉 諸劍 艮 ▲九紫 愉快の日轉居入學金件名弘 求職業退出縁結類利用築等萬吉▲一白 權難のまず事有る日新事手控 萬事は吉一切のせわ事せぬがよし▲二黒 大の心地反て佩となならんとす新事手控の事は吉▲三碧 何となく入組を生ぜんとす謹んで新事手控 萬事土工は妨なし▲四緑 瞬時至極の事有る日新事手控 萬事は吉 買物に用心せらるべし▲五黄 女難失物用心の日新事手控萬事は吉 散財を防がるべし▲六白 疑の晴れる日萬運で利有り待人良報を齎せて來る▲七赤 天助を得る日不圖立身出世の道に出づ萬運で大利有り物に醉の日

一月六日九星(舊十二月十三日戊申 本命九紫 南危 赤口)

▲九紫 縺りつき主義の事有る日新事見合西方は吉 諸劍南▲一白 譏に悖る事有る日新事手控萬事は吉 萬丁寧にせらるべし▲二黒 謙徳を得る日轉居入學金件名弘求縁結婚類築等萬吉▲三碧 増收日轉居開業等皆吉 女子の思はぬ幸福を得る萬運で利有り待人來る▲四緑 祝當の日轉居開業入學弘 出張求職 結婚 移轉築等皆吉▲五黄 結構の日轉居入學家作求職金件 出張…皆吉▲六白 つまらぬ喧嘩多き日新事手控へ事は吉 小兒病注意の事▲七赤 日新事手控萬事は吉 又散財を防がるべし▲八白 論りよき日轉居開業入學 發名弘求職 金件所願の和を計る所成吉

〈演藝案内〉

明治町 電話二六〇 浪花館

東京落語柳連雷門助六一行 ▲一月一日より毎夜五時開演仕候 ▲演藝目▲落語(雷門助丸)▲落語(雷門助三)▲落語…▲曲藝(雷門小六)▲落語手踊(雷門小六)▲落語(雷門助三郎)▲落語手踊(三遊亭歌助)▲落語(雷門助六)…天下一品振…▲江戸土産(松の家)▲…▲大切落語劇

電話一九一 御成座

第五回藝題 一夜の情け鬼の宿 壯士神原五郎 生津村直 御國 貞之助 軍騎兵 近所の者… ▲喜劇 二丁とうふ 一幕

京城本町五丁目 電話二〇五〇 壽館

當る一月元旦より ▼東洋軒雷右衛門一行 一伊賀の水月(雷昇)一出世鏡(辰城) 一譽之魁(義之助)一出生相撲(松雪) 元祿寄之陣▼百集美談▼氏戸黄門記 ……(三席)……雷右衛門口演

本町五丁目 稻荷座

●義列百傑 ●立川一雄 ●荒木又右衛門 五郎 ●廣澤虎… ●平手造酒 ●關取千兩幟 ●… ●俠骨國貞忠治 ●山中若丸 ●藤川久米春 ●臣錄(長講二席)座長竹川馬生

新年初興行一日より 京都親友派の泰斗として萬都の斯界の好評を博せし竹川馬生一行を招聘連夜午後五時より開演仕候間御引立御來聽の程願上候

京城本町五丁目 請元 稻荷座

早川町 電話二六三七 黄金館

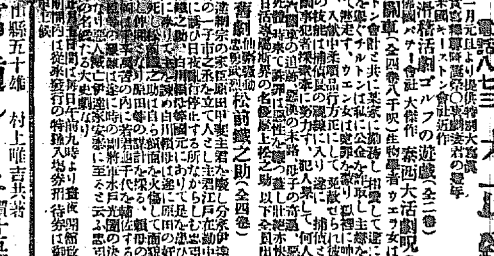
一月五日より新春第二次特別大興行 ▲米國パテー會社大奮作 大活劇 魔海 三篇四卷 四巻上場 ▲人形(ヘルチン、ゼットン)… 新派劇…悲活劇呪の矢 …

日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店 櫻井町 電話八七三 大正館

〇一月元旦より提供特別大寫眞 〇貨物驛… ○米國キーストン會社近作 ○滑稽活劇ゴルフの遊戯(全二卷) △佛國パテー會社大傑作 泰西大活劇呪の汽關車(全四卷八千呎) … ○舊劇 忠臣藏 … 松前鐵之助(全四卷) …

大好評の 浪花館 東京落語柳連一行 雷門助六出演 連夜滿員御禮 今晩は助六得意の出し物 浮れ三番叟

▲市縣五十錢 富の道しるべ 村上唯吉共著 價十五錢 郵税二錢 京城太平通 振替三〇〇番 京城日報社代理部



少年通俗教育會編 少年百譚 歷史の庫 ◇東京市 博文館發行

中判美本全四冊 石版寫眞版挿入 毎冊五百有餘頁 正價各五拾五錢 送料毎冊六錢

秋の部 出來 春の部 夏の部 既刊 古今東西のお伽噺と英雄偉人の逸話とを集めた壹百編、面白い話、勇ましい話不思議な話、珍らしい話が澤山ある寳の庫、智慧の鍵で開けて御覽なさい。冬の部續刊

幼年世界編輯部編 幼年繪話讀本 毎月一回發行

大判美本 毎冊全部 色刷挿畫 各五十個 幼年繪話 十二月讀本 新刊 七月より十一月迄既刊 定價廿五錢 郵税各二錢

其月々の季節に恰好の材料を集めて樂しみながら智識を増すように書いてある。學校から歸つてからお讀みになるには此の上ないよい本です

活動寫眞器械 家庭用小形活動寫眞器械各種

▲寫眞貸附 ▲臨時出張映寫 ▲原料ボン新品豐富 …映寫器械各種 宗教 地理 風俗 風景 滑稽 …

大阪市新町通二丁目 寺田 四郎 商店 電話番號改正 新町一四三一 長新町…

謹賀新年 京元線鐵原郡葛末面東幕里 鐵原重石鑛業事務所

精神科學

成功の根本義

▲誤り易き青年處世の方針 ▲學問や智慧や努力では駄目

飯を挽くには鋸が便利である。穴を穿るには鑿でないと甘く行かぬ。大工には色々の道具が必要だ。仕事には準備が必要だ。成金にも度胸がなくては出來ぬ。人の世に處すの巧拙は智力や學力や努力や金力のみではない。人を操縦支配依服信認せしむる暗示術を知らねばならぬ、之れは群集心理學の示す所であつて吾人の實驗上證明する所である。試みに現代有ゆる方面の成功者を見よ。其地位其名譽其財産の程度は其人によつて違ふも。其根本の素因を詮すれば悉く暗示活用の結果であることを證して居る。吾人は開春劈頭歲舊新たにして吾躍禁ぜざる天下有爲の青年に對し此根本的成功法たる暗示活用の妙を説きたる精神科學實驗錄を無代進呈す。一枚のはがき能く呆して諸君多幸の資となれば本會の幸甚

大阪高麗橋五丁目 電話本局二四二一 東京牛込岩戸町二 電話番町六一四三 精神科學會

謹賀新年

多大なる御同情と御愛顧の下に弊所茲に創業第拾週年の新春を迎へ候就ては改蔵と共に益々確實誠意を以て奮闘し多年の御信用に背かざらん覺悟に候へば質取引なさらんとする御方に向て多少に拘はらず是非『堀佐』へ行けとの貴重なる御聲援を賜はり度く併て貴下の御同情を奉希候

大正六年一月一日

京城黄金町二丁目 (永樂町停留所北入) 質屋業 堀佐營業所 (電話六三九番)

御禮

弊店儀今回大正五年中の營業優良の成績を擧げ仁川米豆取引所より第三等賞銀盃一個及び褒狀を受領するを得たるは全く顧客各位の深甚なる御引立に依るものにして弊店の光榮感謝の辭無之候向後益々業務に勵精し御眷顧の萬一に酬ひ度存候間倘一層の御懇命偏に奉願上候 敬白

大正六年一月

仁川米豆取引所仲買人 今村覺次郎 電話(三三七)(三六八)

日韓書房

新刊書報告 巖谷小波著 新お伽百話 定價八十錢 送料十四錢 沼田笠峰編 たのもしき少女 定價五十五錢 送料八錢 遠澤榮一著 實業處世訓 定價七十錢 送料八錢 山田三郎編 乃木將軍 詩集評解 定價五十五錢 送料六錢 少女世界編輯部編 内外教訓 少女お伽集 定價七十錢 送料八錢

京城本町二丁目 朝鮮振替口座一五一 電話…

菱 窓硝子 (年産額 新四十八萬函)

三等品 御邸宅用は是非此品に限る 四等品 通常舶來と稱し需用最多し 五等品 即ち松印は經濟向に限り御使用を乞ふ

印 兵庫縣尼崎市 旭硝子株式會社

醇良無双清酒 有薫

無害衛生 品質無双 釀造元 福岡縣城島町 藤合名會社 首 發賣元 京城府黄金町二丁目 藤京城支店 長電話一一七一番 首 釜山港幸町 藤釜山支店 長電話三四三番

醫化學器械一式 Ⓚ 仁川本町 北島藥店 電話三三四・振替京城六六七番 京城本町 永樂町角 北島藥店京城支店 電話七六一番

藥種賣藥卸商

▲綿絲當初相場 綿…株期米等の瓦落に運輸機關に…▲種合格米京城著の十一圓…は桶田驛著以入十五圓八十…本品も當脈滿洲大豆の輸出…より約十五錢安の見當を以…る處なれば本品の前途は意…州下格品十一圓八十五錢…山玄米十一圓五十五錢、同…の商内は三千五百叺許…市は三十七錢上鞘の十六圓…初會し七十五錢と押し七十…兇は昨年の初相場より…

附録

新境遇の第一新年

「切通しの風が寒い」と　佐藤軍醫部長

……矢張り佐藤は佐藤で人間は此通り

○京城衛戍病院長から駐紮軍々醫部長に榮轉した佐藤恒丸博士も今年は新境遇で迎年をする人である、司令部の部長室に訪ふ

○「新境遇、成程境遇は若干變つたが矢張り佐藤は佐藤で人間は此通り一向改まらぬよ」と云ふ御挨拶

○「大正五年の軍隊衛生は一般社會に傳染病の流行甚しかりしに引かへ、虎列剌の如き遂に一名も軍隊より出でず頗る良好であつた、今年は病院とか其他間接に關係のある軍隊の諸設備が整つて來たから一層良好にせねばならぬ、イヤ何しろ寒いね僕の官舍は切り通しを受けてゐるから其の切通しに風が集まつて吹いて來る、仲々寒いよ、昨年の正月僕は耳を凍傷で痛めたから今年は大に注意してゐる云々」博士は内科に於ては陸軍醫界の權威だとの評判だが近く軍醫監に昇進するだらうとの事である

「新任匆々何の感想がある」と　釜屋武官

……感想でなくて寒想だ、アツハツハハハ

◎南海軍水路部長の釜屋少將は總督府附武官として着任、今は煤ぼけた武官室に高橋陸軍武官と机を並べて鷹揚の職員給仕と雜居し英國風のソツファに偉大の體軀を投げ出して居らつしやる

◎時離れ大正五年十二月二十七日、氣溫は零度以下十七度を示して牛の涎が氷柱になつたのを見た午後二時といふに顫へながら總督府に出掛けて武官室に飛び込むと少將は讀み差しの外字新聞を投げ出し此方を振りむいてチユツと鼻を吸ひ込まれる

○「ヤア誰れかと思つたら君か、此の寒さは如何だい、京城でも斯んな事は珍らしいさうだね、さア掛け給へエ、ナニ今日は感想を叩きに來た? 何の感想だい、新境遇の第一新年だとアツハツハツ新任匆々何の感想が在る、イヤ大に在る併しそれは感想でなくて寒想ぢや、僕の昨今は全く寒想に震へてゐるよアツハツハ、、、

○前任時代と目下とは孰方が忙しいかといふのかね、夫れは君孰れも職務の事だから甲乙のある筈は無い何方でも忙しくしようと思へば忙しいが暇にならうと思へば暇になるさ」

◎椅子から離れて大きな腹を突き出し下拵たりンとせり上げつゝ暖爐の前に出張ると古府の參謀章がチラ〳〵と揺れて首に吊つた旭日章がキラリと閃く、削り立ての頭髮青く殘つて太い眉の下には鋭い眼が温かに微笑で居た

「其處は何卒惡からず」と　久水外事課長

……御承知の通り　私は新任匆々で

◎久しく仁川府尹に港務關係の腕を揮つてゐた久水三郎氏は昨冬高等官二等に陞叙の御沙汰があつて同時に外事課長を拜命し今は日々總督府に通勤前小松氏の部屋に納まつて事務に鞅掌とある

◎例に依つてノツクの後ソロリツと這入ると暖爐の火は心地よく燃けて廣からぬ室内の溫度は死鉛幕の樣な心地がする、ト振り返つた課長は頻りに走らせてゐた萬年筆を靜かに置いて暖爐に寄り添ひ乍ら微笑み乍ら

○「御承知の通り私は新任匆々ではあるし又た御覽の如くゴテ〳〵して居るものですから一向纏つた感想はありません其處は如何か惡しからず……」然し後者の御尋ねなら多少考へてゐる事がありますから大要を御話し致しませう」とて諄々說き出されたものは別項海外に發展せんとする日本の青年題下に揭げた同氏の談である

「取る計りでなく、偶にや出したら如何だ」と　荻田總務局長

……感想だのつて　そんなものは無いやホ

○「感想だの所感だの云つたて左樣なものは無いやね、如何でも斯うでもコヂ付けろつてそれは無理さ、無い袖は振れぬといふ譬の通り無いものは仕方がないぢやないか、、、、、其れよりも君何か面白い事は無いかね、君達は何時も取る事許り考へて出す事は爲ないむだね、何か御廢寡に面白い話しを出しちやどうだい」

◎何時の間にやら「主客立ち處を異にして來たので局長陣容を立て直さんとする處へ久芳人事課長が首を出しザロリと此方を一瞥した樣局長はみゃに書類を示してブツ〳〵私語すると局長は頻りに首背する、其處へ給仕が山の樣な書類を抱へ込むで恭しく卓上の未決箱に容れる、久芳課長と入り代つて遠藤秘書課長が見ねる、夫れから間が來る屬員が來る、何時も乍らの忙しさに局長の首を傾けてゐると「ガイ君はまだ此處で油を賣つてゐるのだな」

○ヒゲの入つた牛皺の樣な顏に驚いて顏を上げると横紙破りの青木商工課長が布袋腹を抱へて暖爐の前に突つ立つてゐた

「金融部の活動が肝要だ」と　松平東拓理事

……社務に勉強より外はない

○東拓新理事總務部長松平直平子は舊雲州松江十八萬石松平直亮伯の令弟より入つて廣瀨三萬石の子爵家を襲ゐだ人である、野田大塊翁を永く主人とした西小門の御殿に子爵は家令と共に住んでゐる、一寸容貌から舊大名らしく見ねる人だ「社務に勉強して行く」と云ふ外改まつた年頭所感はない」との御意、話しを社務に持つて行くと著任匆々忙しさうにポツリ〳〵語る「總務部所管の積極的事業は殖民だが、コレは粒揃ひの内地農民を容れる事にせぬと成績がよくないやうです、ナーニ僕が京畿に於ける大株主を代表して入社したつて?、飛んでもない事だ、僕は永く東拓の監事もしてゐて内地にゐる會社關係者としては比較的近い所から、まあ理事の選に入つたのであらう、

○内地株主の意向、それは結局利益を殖して貰ひたいと云ふにある、會社の利益を殖すには金融部の活動に待つ外はないやうですね」

新年詩壇

遠山雪恭賦　浦村　慨外
瑞、花、昨、夜、絶、風、塵。暦、與、乾、坤、共、一、新。遙望東天迎旭日。[illegible]皇城泰平春。
評曰　風情可欣

同　秋元　三省
高○樓○曉○起○拜○朝○曦○大○地○春○回○淑○氣○吹○皆○祈○山○萬○重○外○玲○瓏○[illegible]○照○乾○坤○
評曰　別後六年始見高作筆益加健可觀可喜

同　洗油　隣士
笑、迎、新、年、酌、酒、樽。前、山、環、樹、挂、朝、曦。書、窓、坐、見、東、風、起。閃、閃、青、空、白、鶴、翻。
評曰　結七字畫亦不及

同　西村　秋湖
遠、山、冠、雪、白、嶙、峋。色、玲、瓏、滿、九、天。意、描、來、自、然、詩、人、詩、入、酒、觴、心、開。
評曰　語語又自然

同上　成田　静香
遠○山○冠○雪○玉○玲○瓏○元○氣○氤○氳○五○彩○中○蕭○條○成○林○初○旭○昇○乾○坤○一○白○一○輪○紅○瞰○照○映○白○雲○峰○光○入○秋○豊○瑞○甕○重○五○掛○三○山○僊○不○識○孤○詩○的○歷○玉○芙○蓉○
評曰　才華洋溢氣象宏闊後首較牛、珠推奇想

同上　西田　白陰
岳、秀、雲、煙、擁、勝、中、千、天、聳、峙、玉、玲、瓏、歌○億○兆○迎○初○日○萬○祚○無○窮○仰○徳○崇○
評曰　雅頌、雅頌

同上　安東　擎雲
雪○白○嵐○東○山○提○重○玲○瓏○萬○里○絶○纖○容○晴○光○映○照○初○陽○日○斷○影○滄○溟○起○蟄○龍○
評曰　壯麗

同上　竹田　斎甫
仰○望○遙○山○先○拂○瓦○滿○天○雪○霽○日○升○時○頭○巳○有○秋○豊○兆○現○出○晶○晶○白○玉○姿○
評曰　洋洋雅潮

同上　總監部北巖
春○到○遙○峰○淡○欲○無○雲○耶○是○雪○白○模○糊○雕○樹○絶○頂○金○明○水○出○玲○瓏○八○朶○圖○
評曰　明淨警齊、佳語霏霏、如吐玉屑

同上　淺野　穗雲
寒、霧、全、晴、望、快、哉、旭、暾、丈、五、瑞、光、開、遙、山、雪、後、多、奇、趣、惱、殺、文、人、墨、客、來、
評曰　惱殺者、君獨在、

■三日對坐吟

年賀狀二枚牛に付け行く　虎耳
牛の涎其まゝ氷柱の二日
御法度に門松小さき人通り
出初女が裾模樣吹かるゝか
○
羽子つく本町を水兵走る　目油
三日の午後蛇の繪揭げ香焚く
初荷の荷印赤く宵く明ら
鍬初め草はらに臥す牛
騎初め先鋒までの道風
夫婦禮者あがらずして去に晃
初刷に坐る三毛猫の尾長し

賀正　鐵原邑内　和洋菓子商　寶來堂

賀正　江原道鐵原　安藤榮貳

賀正　鐵原驛前　東旅館

賀正　鐵原邑内　日之出旅館

賀正　鐵原邑内　石川末治

謹賀新年　鐵原邑内　山田醫院

謹賀新年　各種時計貴金屬製作品並附屬品販賣　江原道鐵原邑　德岡時計店　振替口座四〇九七

謹賀新年　鐵原邑内　會席御料理　廣島屋

謹賀新年　毎々御引立を蒙り日に隆盛に趣き候段厚く御禮申上候以御蔭從來の家屋にては手狹を感じ候爲今般前大和館跡へ移轉致し從前格に營業仕候間何卒舊倍の御愛顧偏に願上候　鐵原邑　山口屋旅館

謹賀新年　江原道鐵原　星野波次郎　清水幸七　安武登　山本貢　小野田政治　李起練　金完鎬

謹賀新年　忠南江景西町　佐々木卯作

謹賀新年　群山港　米穀商　日高商店

謹賀新年　忠南江景西町　株式會社韓一銀行江景支店　電話長五八番

謹賀新年　忠南江景中町　米穀委託賣買　精米業　林龜助商店　振替口座京城一四三番　長電話三番(電略ご)

謹賀新年　忠南江景　江景信託株式會社　電話二九番

謹賀新年　群山港本町　尼崎汽船部群山出張店　電話二〇五番

謹賀新年　忠南江景　三南殖産株式會社　電話二七番

謹賀新年　全北裡里　大橋農場

謹賀新年　全羅北道金堤李月里　桝富農場　平富榮一

謹賀新年　全羅北道金堤驛前　石川縣農業株式會社金堤支店　北尾榮太郎

謹賀新年　全羅北道金堤　阿部農場　奥村竹三郎

謹賀新年
○活動寫眞全般の貴需に應ず遠路御照會は直ちに懇切に御通信可申上候
日本活動寫眞株式會社　京城出張員派出所　京城本町二丁目八八　電話二九二三番

賀正　三中井呉服店　所在地　京城　釜山　大邱　元山　晋州

謹賀新年　鐵原商店案内(いろは順)
日鮮雜貨並つちや足袋　石原商店
御料理仕出並菓子製造販賣　伊勢屋
清酒大關特約店和洋雜貨販賣　梶原薰商店
日用世帯道具一切食料品並清酒白鶴　米田商店
銃砲火藥並質商　中村政商店
食料品並生魚商　八百岩
官製煙草サクラビール日鮮向雜貨清酒澤之鶴　藤澤商店

謹賀新年　鐵原消防組
組頭　武安庭藏
小頭　藤澤暢太郎
小頭　梶原薰丸
副組頭　金在天
小頭　趙基元
小頭　李元俊
他消防夫一同

謹賀新年　松秀庵　白水　京城旭町一(電話一七一四番一三九一番)
京城寫眞館　京城南大門通三(電話一〇四〇番)
カフエータイガー　京城南大門通三(電話一二五七一番)

謹賀新年　鐵原運輸組合　鐵原驛前
小宮山八郎
梶原藤造
大鹽支店
金鑑濟
文世基

杉山檢校

猫遊軒伯知講演

本年は巳歳でございまして、何んぞ此の干支に因みある事を一席講演いたせとのお求めに從ひ、我國で盲人の司とも云はれた杉山檢校の出世談を申し上げまする、何故此の人が干支に因みあるかと申すに相州江の島の辨才天に參籠いたし夢中に管と鍼を得て此所に始めて筒を用ゐて鍼を打つ事を工夫いたしました、それまでは採鍼であつた、後に徳川の旗下の資格を得まして八百石を領し今日もその御子孫は繁昌いたして居ります、して見れば巳に緣があつてお芽出度出世談、春のお讀み物には適當であらうと存じます、時は寛永の六年十二月の末、此所は江戸芝口二丁目、其所に鍼醫で山瀬琢一と云ふ者が居りました、盲人でございますが鍼術にかけては其當時名人と云はれたもの、恰度日の暮れ方でございまして此日朝から降つて居る雪は彌々劇しく四邊は宛然白布を敷いたやう奥の六疊で炬燵に當つて居りました琢一が 琢『何うだまだ雪は歇まないか』○『歇むどこではございません』牡丹の花のやうな大きなのが降つて參りました、然し好い景色でございますな、汚ない所も隱してしまひ、古い文句でございますが銀の世界になつたやうで 琢『アー然うかの、俺は目が不自由だから只雪は冷たいものとばかり思つて居る ○『大きに然うでございます 琢『みのや火が大分薄くなつたやうだがモウ少し持つて來てくれ み『ハイ、只今、阿父さん然う貴下炬燵にばかり入つて居らつしやると逆上て目を惡くいたしますよ 琢『何を云ふのだ、此より上に目を惡くしやうが無い、何時まで過つてもお前は子供だな、明ければ十六になる早く聟を貰つて俺に樂をさしてくれ然しお前の云ふ通り大分逆上て來たチト窓へでも出て雪の匂でも嗅かな み『アラ厭な雪に匂等はムいませんよ 琢『無とも俺は匂がすると思つて居る、サア手を取つてくれ み『此方へお出なさい』娘のおみのが手を引いて往來に面した窓の所まで連れて來た み『阿父さん此所で宜うございますか 琢『宜い〳〵、此の窓の障子を排けろ み『排いて居りますよ 琢『アー然うか、成程大層雪が降つて居るな、音がするアー冷たい、寒い風だ、モー年內も餘日も少ないから、天氣を續かして遣りたいものだ、オイ〳〵おみの、犬でも窓の下に居るか、妙な聲が聞ゑるが犬か、鳥渡見てくれ』おみのが窓下を見ると包みを背負つて旅支度をした盲人が杖を肩にしてウームと呻吟つて居ります み『阿父さん何所の方だか知りませんが癪でも起つたものだと見ゑて苦しがつて居りますよ 琢『それは氣の毒だ、此方に上げろ み『それに阿父さん、盲人でございますわ 琢『何、盲人だと何以つて氣の毒だ、此方へ連て來い、コレ〳〵安一や窓下に病人が居るから此へ連て來てくれ 安『へエ畏りました其は何も氣の毒な事で』奥から出て來たは仍且盲人で內弟子の安一と云ふ年は廿三誠に親切な人 安『何所でございます其病人の居るのは み『彼の窓下ですよ、妾も一緒に行きませう』格子を排けて二人揃つて表に出る 安『何所に居るんだ、オイ病人と云ふのは何處に居るのだ何んとか云ひな 盲『へイ盲人でございまして 安『盲人だから何所に居るかと聞くのだ 盲『だから盲人でございます 安『判らない人だな、此方が盲人なんだ 盲『ヘエ私も盲人でございます 安『何んだ盲人だ、イヤ此は太笑ひだ、此所だサア此方へお入り、オヤ〳〵お前旅の人だな 盲『左樣でございます 安『それに困るだらう、お孃さん貴女手を取つて遣つておくんなさい み『此方へお入んなさい 盲『ヘエ、有難う存じます此の寒いので急に下腹に癪が參りまして み『今癒して上げますから此方へお出なさい』手を取つて內に入れ、湯を持つて參りまして此の娘が足を洗つて、遣り包みを持つて、此の盲人を奥に連れて來ました處へ參りました琢一が 琢『お前か、病人は、何う其處へ寝るが宜い炬燵があるから足を溫めてな、何所だ痛む所は、ウーン此所か大層張つて居るな、宜し〳〵今直ぐ癒して遣る、おみやその箱を持つて來い』琢一が鍼を取出して二三本打ちました 琢『何うだまだ痛むか 盲『有難う存じます、貴下は御名人でございますな、彼程痛んだものが拭つたやうに快くなりました 琢『然うか、鍼醫が癪を癒すは當然、別に名人と云はれる程の事はない 盲『へエ、貴下は何んでございますか鍼の先生で 琢『先生と云はれる程の者でもないが俺は山瀬琢一と云ふものだ 盲『エッ、貴下が山瀬樣でございますか、それは何うも有難い事で、私は貴下のお弟子にならうと思ひまして遠方からわざ〳〵此の江戸に出て參りました 琢『アー然うか、してお前は何所の者だ 盲『大和の郡山の在杉山村から出て參りました和一と申します者で、昨晩神奈川へ泊まりました今日江戸に入つて參りましたが只芝と許り聞て居りまして何處に貴下がお在なさるかそれが判りません故方々尋ねました、江戸と云ふ所は廣い所で芝にもいろ〳〵町があるさうでございますな 琢『それは大和の郡山とは一緒にならない、然し俺の家の窓下でお前が癪が起つたも師弟になる緣があると見ゑる、安一やお前聞いたか 安『聞きました、癪が起りました爲に先生の居所が判つたとは面白い事で、癪が取りもつ緣かいな 琢『何を云ふ、時に

何んとか云つたなお前の名は、和一か、何才だ 和『十七でございます 琢『親はあるか 和『十一の時に兩親とも亡くなりました 琢『それは氣の毒千萬、乃で江戸に知人があるかな 和『知つて居る者はございません 琢『受人が無いものを弟子にするわけには叶かない、然し遠い所から俺を尋ねてはる〳〵江戸に登つたお前、弟子に出來ぬと追歸すは氣の毒だ次第に依つては此方で受人を拵へて修業をさして遣るが何う鳥渡顔を見せろ 和『先生は目が見ゑますか 琢『俺は生れ付きの盲人だ、して見れば見ゑねが探れば判る、何う〳〵顔を此方へ出せ、ウーン却々好い男だ、鼻も高しウーン、格好の好い鼻をして居る、和『ハクシヨ 琢『風を冒いだな 和『イエ鼻の中へ指が入りましたから 琢『アハヽ、然うか、イヤ顔の格好の好いものに惡人は然うない、だが美しさに馬鹿もと云ふ事がある、馬鹿では困るな、お前馬鹿か 和『自分では大した愚者ではないと思つて居ります 琢『口の利きやうでは滿更馬鹿でもなさゝうだ、今迄鍼を遣つた事があるか 和『まだ一度も持つた事がございません 琢『ウーン、按摩を遣つた事があるか 和『國に居た時に藤袋の市と云ふ人に付いて稽古をいたしました 琢『然うか、田舍按摩では碌な事は敎へまい、少し落着いたならば俺の肩を揉で見ろ 和『畏りました 琢『マア柔らかいものでも食べて今夜は悠然休息するが宜い』其夜は泊めて翌日肩を揉して見たが 琢『お前は不器用だな、然しその不器用なものが一心に覺ゑた術は上手を遂ぐ程の妙がある、先づ修業するが宜い』此の山瀬琢一は大腹中の人で、大和郡山の在の者だと聞いたのみで受人なしで內弟子にいたしました、採療治から鍼術を敎へた、處が此の和一が洵に記憶が惡い、書物なぞを敎へますが盲人の事ですから耳に聞いてそれを暗誦しなければならない處がその日は覺ゑて居るが翌日は忘れてしまう、從つて鍼の方も進歩いたしません、最初は枕に打つてその次が自己の膝に打つて居る、愈々卒業間際になると盥に水を汲みそれに夏なぞは茄子なぞを浮してポーンと鍼を打つ、圓熟して來ると此の茄子か少しも動きません、何んになつても此で世を渡ると云ふには容易な事ではない、然し藝なぞは覺ゑる程は難かしいが覺ゑ込んでしまうと元の苦勞が夢のやうに思はれる、和一は一生懸命に鍼を學ぶ處が何うも不器用で進境が見ゑません、それを兄弟子の安一が宜く敎へる、又娘のおみのが親切に世話をする、此所に三年居りました 琢『和一や、鳥渡此へ來い 和『へエ、何んぞ御用で 琢『惡く思ふなよ、お前は迚も鍼では世に立てない、何んぞ他の事を稽古をしたら宜からう、近頃流行の三味線とか又箏とか然う云ふものを修業したら宜からう、何藝に依らず三年過つて下手は下手なりに型の付くものだ、何うもお前はまだ下手にもなれない、それ故此の鍼は斷念めてしまへ、宜いか人には人の、得たる業がある、天から授つた業だ、お前は鍼は叶はない』云はれて和一が 和『へエ私は鍼醫にはなれませんか、殘念な事でございます、三味線や琴が何程上手になりました處で彼れは遊藝でございます、何うぞ私は人の病を癒す立派な鍼醫になりたいと思つて遠方から江戸に出て來ましたが、貴下に見限られた上は何うも仕方がございません 琢『泣くな〳〵、心を大きく持て、俺はなお前の行末を思ふからこんな云ひ惡い事も話して聞かせるのだ、宜いか無分別を出してはならないよ、何んぞ他の事をしろ、サア此所に金が二兩ある、此を路用として故鄉に歸るとも又京都大阪には三味線の上手な者が居ると申すから其處へ行つて修業するともしろ、假へ遊藝でも末世に名を殘せばその道の神樣だ、貴賤のあるわけはない 和『へエ、いろ〳〵有難うございますモウ何も申しません私が惡う故でございます』淚を流してその部屋を出ました、その時後から追いて參りました娘のおみの み『和一さんお前は大和とやらへ歸るかへ 和『へエ、先生に斷はられた上は國に歸るより外に仕方はございません み『然うしたら何うだらう、彼の江の島の辨天樣は大層御利益があると云ふからお前、江の島へお籠りをしてお前の身體に叶つた事をお願ひ申したら宜からう、一心になつてお願ひ申したならば必度お告げがあるに相違ない、ね和一さん然うして御覽』 和『へエ、有難う存じます、辨天樣は琵琶を抱いて居りますから三味線でも習へと云ふに相違ございません み『そんな勿體ない事を云はないでお願ひ申して御覽、さア此は妾の心ばかり草鞋錢とやらに持つて行つておくれ 和『有難う存じます先生と云ひ貴女と云ひ又兄弟子の安一さんと云ひお慈悲深い方々と別れて故鄉に歸ますは殘念な事でございますが何うも致し方がございません、何れ出世をいたしましたならばお目にかゝりますが隨分貴女も御機嫌宜う』熱い淚を流して禮を云ふ、安一もそれへ參つて種々慰めた上草鞋錢をくれました、翌朝一同に別れて江戸を後に相州の江の島に志しました和一、中一晩泊つて江の島へ參り岩本院へ參籠いたす由を屆けて御籠り堂に入りまして三七二十一日の間斷食をして辨財天を祈りました、何うぞ私の身に應じた職業をお授け下さい、素より江戸に行き琢一の許にて修業いたした術を以て世に立ちたき望みを抱きしが、性來の不器用者とて迚も此の術にては世に立てぬと云はれ琢一の許を遂れて此處へ參りました私、何うぞ御利益を以まして身に應じたる業をお知らせ下さいましと一心を籠めて祈る、何にしろ斷食でございますから日增に身體は疲れるばかり、スルト滿願の當夜和一が 和『是れ程お願ひ申しても何のお告げも無い處から考へると俺は鍼でも名を爲すことは出來ず、又遊藝でも世に立つことが出來ないと見ゑる、此の上は故鄉に歸つて按摩導引で一生を終るかあゝ殘念なことだ、南無辨財天大應護の鍼を垂れ給ひ、南無辨財天』と頻りに念じて居ります內に、夜は次第〳〵に更渡り時しも九月の下旬、秋のならひで俄に風が出て來てドーと云ふ海の荒れる音が聞へるバラ〳〵〳〵落葉は籠り堂の窓を打つ、和一は羽目に身を凭して心の內に辨財天を祈り居りましたが、疲れた儘にウト〳〵と睡る。此時何やら膝へバタりと落ちた物がある、それで睡を覺し 和『何だらう。何か此に當つたやうだが』と膝を摩ると手に觸れた物が一本の針である 和『す、此は針だハテナ古代なことがあるものだ何うして此處に道樂物が落ちて來たか、ハテナ未だ此處に何ぞある樣だ』膝元を探ると筒がございました長さは二三寸の物 和『是は不思議だ此は紙で拵た筒だが何で道樂物が此處にあつたもう古代なことがあるものだ』と申した時遙か奥の方に當つてリーンと云ふ鈴の音が聞ゑた、和一此時其處へ平伏して 和『有難う存じます偖は私の願をお聞き下さいまして此針と筒をお授け下さいましたか性來

愚者でございますがお告げによつて今一度鍼術の修業を致しまする』と大層喜びまして彼の二品を懐中に夜明を待つて籠り堂を出で、宿屋に引取り三日休息の上再び江戸に引返したが師匠琢一の許には參りません兩國一ッ橋の裏家を借りて住し夜毎に按摩導引と市中を流し歩き、それにて得たる鳥目にて生活を立て、晝は一生懸命鍼を研究いたした一年餘り怠らず稽古いたすと何うやら鍼が動く樣になつた。係うなると自然それに趣味を有つて增々勉めます故、愈上手になつた、三年目には立派な鍼醫になつた、其の上此の人が管に鍼を入れて打つことを工夫した、又採療治も古人の田地以外を開拓して是を杉山流と名付けましてこれまでに無い採療治を工夫した、さア和一の評判が好い、諸方より招かれる、然し係うい ふ篤實な人物でございますから夜分になると笛を吹てピイピイと流して歩く、決して氣取りません、恰當昔のことでありましたが、芝の神明樣の前から芝口の方へ流して來ると ○『鳥渡按摩さん、お前さん鍼は出來ますかね 和『へエ、少々は心得て居ります ○『少々じやア困るな、何うだイ癪が癒るかね 和『左樣でございます、癒す爲に鍼を打ちますとこですからまア癒るだらうと思ふ ○『じやア來ておくんなさい、此の向ふの佐野屋といふ質屋だがお內儀さんが急に癪が起つて困つて居るんだ 和『あゝ然うですか、デハ癒して上げませう ○『此の按摩云ふことは大業だ。さ此方へ來ておくれ、其處に腰縢があるよ 和『ハイ、未だ腰縢を掛けツぱなしかな。此處は向ふに家があるから係うして置くと見ゑる ○『危い〳〵此處を通つて行きなさい、手を取つて上げるよ 和『是は憚りさま、何處に御病人が居りますお此處かね、宜うございます私が受合つた、大丈夫ですよ』屏風を排いて中に入る、ウーンと苦んで居ります、二三人で腿へ付けて居る、和一は探りながら其處へ進み 和『寝かしてお置きなさい、宜いかね』腕から下腹を靡り下して居たが懐中から取出した鍼、それに筒を添へてピタリと下腹に當ると鍼を其の筒へ入れてポーンと一本卸した、ピリ〳〵〳〵と病人の身體が痺れる、スーツとそれを拔てペロリと舐め又一本ポーンと卸した、此の苦んで居る病人が二本の鍼で痛も去りスヤ〳〵と睡りました、和一は後へ退つて 和『もう宜しいこれで悠然睡られる ○『大した按摩だな、上手なもんだ、旦那樣御安心なさいましお內儀さんの癪は拭いて取つたやうに癒りました』又兵衛といふ此家の主が 又『それは宜かつた、何うも時々此の病があるので困るのだ ○『それは宜うございますが山瀬さんの方は何うしませう、きましたから明日お出を願ひますと 又『斷はつて來な、病人の開きがつ係う云つてエな、何に先生が來たと、然うか此方へお通し申しな』奉公人の案內で入つて來たは芝口二丁目に居る山瀬琢一、此人は和一の師匠でございますが、兩方とも盲人ですから顔を合はした處で判らない 琢『只今お使でしたが、生憎俺も居なければ安一も出て居つてな 又『左樣でございますか、實は先生お出が遲うございますから表へ通る按摩さんを呼びまして鍼をして貰ひまして宜い按排に開きがつきました 琢『あゝ然うですか』云ふと番頭が ○『あの按摩さんの鍼は妙でございます筒の中へ入れて打ちましたよ』是を聞いて琢一が 琢『其の按摩は歸りましたか ○『今お茶を喫んで居る樣で 琢『鳥渡呼んで下さい』と云ふ時次の襖を開いて入つて參つた和一が 和『貴下は先生ではございませんか、私は和一でございます 琢『オー和一か、何かお前が鍼を爲たか 和『へエ二本卸したら悉皆沈靜ました 琢『驚いた山瀬琢一が國に歸つたとばかり思つて居た和一が江戸に居て加之癪に惱む此家の家內を二本の鍼で治めたといふ只驚いて 琢『御主人此者は俺の弟子でございますが何うして道療に上手になつたか、まア一緒に來イ和一、係うしては居られねね、種々聞くこともあるから』と手を取つて引立て表へ出たが、嬉し紛れに二人とも杖を忘れて行つてしまつた、佐野屋の番頭が杖を持つて追蒐けて來ました俗琢一が我家に和一を伴れて來て何處で修業をしたと聞くと辨財天へ參籠して鍼と筒を感得したことを告げました、イヤ琢一が喜んでお前は天下の名人だと手を取つて泣たさうでございます、處へ兄弟子の安一も歸つて來れば又琢一の娘おみのが其處に參つて自分が和一に勸めて辨財天を祈らしたことを話しました乃で琢一が和一を手許に置いて筒を用ゐて鍼を打つことを學びました、今は師匠が弟子となつた、猶其の上に娘のおみのを和一に遣はして婿にしたが他姓を名乘るは好しく無いと申して婿とは云へど山瀬の姓を名乘りません、間もなく四代將軍家綱公が此の和一を召されて侍醫にいたした、其時杉山といふ姓を遣はして盲人の官位は檢校、人稱して杉山檢校といふ、五百石を領して旗下同樣の待遇を受ける、然るに四代將軍薨去御跡目御相續爲されたは弟御の綱吉公此が五代將軍でございます、此の方は今で申す健康斯、昔は是を痛風と申したが是が五代公の持病であつた、それを杉山檢校が鍼で癒した、其節五代公が 綱『檢校其方に褒美を取らす何なりとも望め 和『有難き仕合せ仰せに從ひお願ひ仕りますは何うぞ私に目を一つ下し置かるゝ樣、偏にお願ひ仕りまする、五代公も是には困つた處が此の將軍は學者でございますから頭が能く働くと見ゑて 綱『目を取らするぞ 和『有難き仕合せ 綱『追て沙汰をいたす』と檢校を其の日は退げて其後お召になつた本所一つ目にて三千坪の地所を下された、洒落た方があるもの、加之辨財天の社のある傍でございます。檢校大きに喜んで此處に屋敷を拵へて住む、時に三百石の御加增合して八百石、身分は御旗下の內布衣以上實に立派なものです、然して關東總檢校といふ官位を又授けられた、玆で講堂を造へて盲人に採療治又鍼術を敎へました後に山瀬琢一の門人三島安一が此の跡を襲で是も猶且將軍の侍醫となり號を元與院と申しました、偖此の杉山檢校は大和郡山の在杉山村の農民でありましたが一心不亂に鍼術を學びまして盲人でありながら旗下に執立られたは實以て芽出度こと、今日も東京本所一ツ目に總檢屋敷と申して地名が遺つて居ります、元祿の七年六月の廿六日年八十二を以て沒しましたが、其の跡を襲ぎました三島檢校が眞傳流と申す鍼術に關した書物を遺し置きまして今も盲人方が是を學び採療治と鍼に就て大層利益を得ろさうでございます、先は本年の干支に因み江の島辨財天に參籠いたし鍼術の妙手を得たといふ杉山檢校の逸話是を以て芽出度讀切といたします